

3-5 当該都市の特質を示す事項

安曇野市は、長野県中部に位置し、北は大町市、池田町、松川村、生坂村、筑北村、南は松本市に隣接し、東西25.9Km、南北21.0Km、総面積は331.82Km<sup>2</sup>である。西部は北アルプス連峰がそびえ立つ中部山岳国立公園の山岳地帯であり、燕岳、大天井岳、常念岳などの海拔3,000メートル級の象徴的な山々がある。北アルプスを源とする中房川、烏川、梓川、高瀬川などが犀川に合流する東部は、「安曇野」と呼ばれる海拔500から700メートルの概ね平坦な複合扇状地となっている。市政施行は平成17年であり、豊科町、穂高町、明科町、三郷村、堀金村が合併した。

古くから産業が盛んで、県内有数の工業集積地であると供に県内一の米どころとしても知られる農業地域であり、近年はわさびやリンゴなどをの特産品を活かしつつ、豊富な資源を活かした観光産業も盛んな地域である。

都市計画区域は、豊科都市計画区域と穂高都市計画区域が昭和29年、明科都市計画区域が昭和50年、三郷都市計画区域が昭和60年、堀金都市計画区域が平成2年に指定され、豊科都市計画区域では昭和46年に市街化区域及び市街化調整区域が決定された。地域地区では豊科都市計画区域、穂高計画区域に用途地域、都市施設では道路、駐車場、公園、緑地、広場、墓園、下水道、汚物処理場、ごみ焼却場及び火葬場が定められている。また、土地区画整理事業及び地区計画により、市街地において計画的な都市づくりを進めてきた。

今回、合併以来検討されてきた、それぞれの拠点を活かした田園都市づくりを実現するため、5つの都市計画区域を一つに統合し、豊科都市計画区域でのみ行われてきた区域区分を見直し、安曇野市域全体の一体的な土地利用規制誘導、都市計画を推進する。

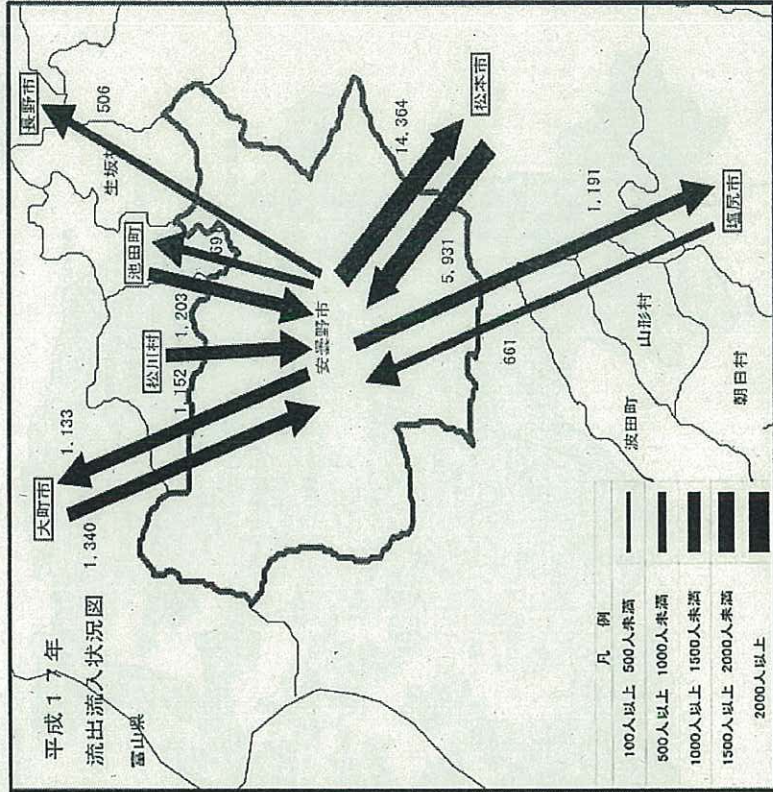
3-6 周辺の都市との関係

○ 流出・流入別人口の推移

市町村名：長野県安曇野市

	常住人口による就業者数 (人)	流出		常住人口による就業者数 (人)	流入	
		就業者数 (人)	流出率 (%)		就業者数 (人)	流入率 (%)
平成2年	51,139	17,103	33.4	従業者による就業者数 (人)	9,222	21.3
平成7年	54,747	19,166	35.0			
平成12年	55,314	19,320	34.9			
平成17年	55,929	20,008	35.8			
				従業者による就業者数 (人)		
平成2年	43,258	9,222	21.3	従業者による就業者数 (人)	10,229	22.3
平成7年	45,810	10,229	22.3			
平成12年	48,088	12,094	25.1			
平成17年	48,512	12,591	26.0			
				従業者による就業者数 (人)		
平成2年				従業者による就業者数 (人)	10,229	22.3
平成7年						
平成12年						
平成17年						

※平成17年は合併後の安曇野市の値

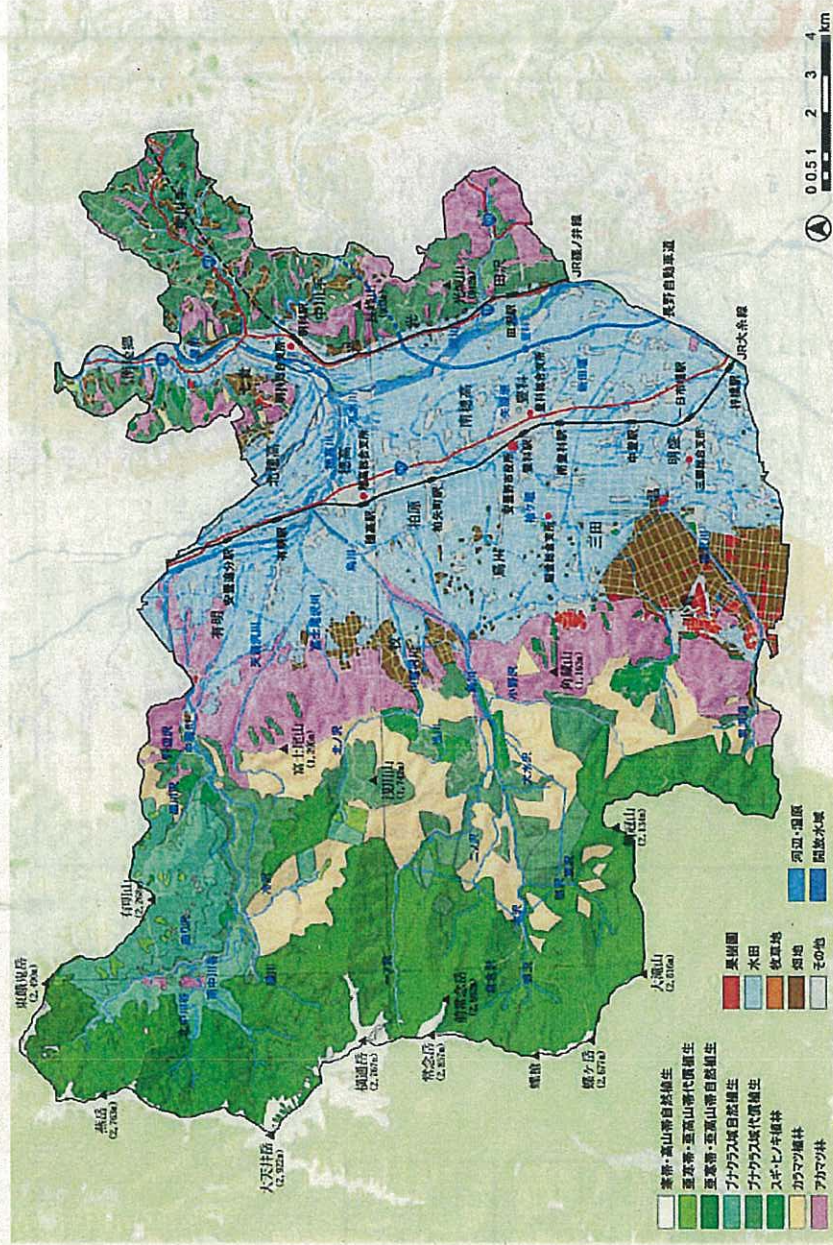


流出・流入人口の状況 資料：国勢調査



#### 4 都市計画区域に隣接した良好な樹林地等

安曇野都市計画区域の西部は中部山岳国立自然公園に続いている。標高3000m級の山々が連なる国立自然公園内の多くは国有林であるが、都市計画区域に隣接しては民有林であり、多くが保安林となっている。  
高山帯、亜高山帯、山地帯と続く分布により多様な自然環境が形成されており、山地帯は杉、ヒノキ、カラマツの植林地となっている。人口林はカラマツ、アカマツ、天然林は広葉樹、アカマツが多く分布している。



現存植生図

出典：自然環境保全基礎調査(昭和59年度調査) 環境省



# 4 都市計画区域に隣接した樹林地等

